

2020年度 大学入試における英語外部試験について

2019年9月12日
進路指導部 2年 HR 資料

1. 英語の大学入試試験について

国公立大学と受験する場合、原則として以下の3種類の試験を受験することになります

| | | |
|--------------------------------|--|--|
| ①英語外部試験 ＜新制度＞ | 2020年4月～12月 事前に共通IDを申告 最大2回まで受験可 | 英検やGTECなど、民間事業者による外部試験を各自で選んで受験する。2019年11月に公布される「共通ID」を使って申し込むことで、成績が大学に送られる。ただし、成績の利用方法は各大学で異なる。 |
| ②大学入学共通テスト「英語」 ※従来の「センター試験」 | 2021年1月 | 現在のセンター試験の後継となる試験。センター試験と違い、「リーディング：100点(80分)」「リスニング：100点(実質回答時間30分)」の素点となる。ただし、実際の入試での傾斜配点は各大学で異なる。 |
| ③二次試験 ※従来と同じ形 | 2021年2月 | 現在の二次試験から大きく変更はない。各大学独自の方針で作成されるため、問題形式や配点は大学ごとに様々である |

2. 英語外部試験について

①いつ受けるの？

2020年の4～12月に、最大2回まで受験が可能。「いつ受けるか」については各受験生が、自分の受けるテストが開催される日にちを調べ、自分で決めなければなりません。なお、高校2年生までで外部試験をすでに受けている人も、共通IDを使って再度「受け直し」をしなければなりません。

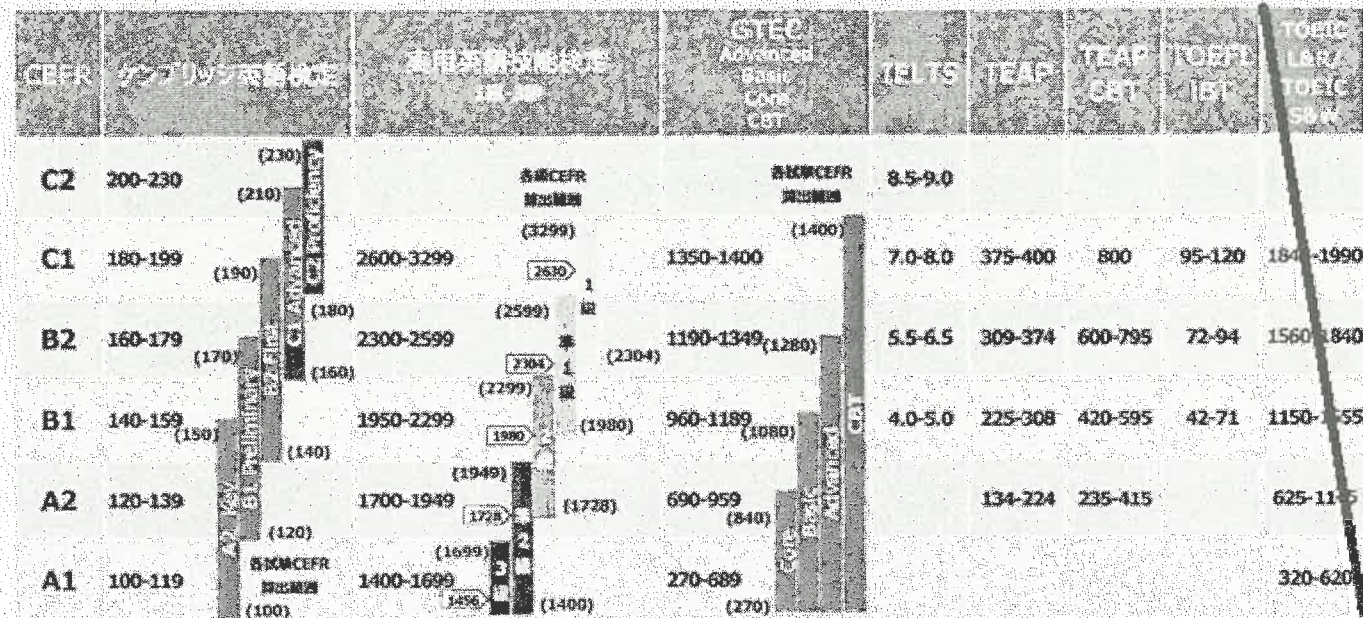
②どんな試験があるの？

「ケンブリッジ英語検定」「実用英語技能検定(英検)」「GTEC」「IELTS」「TEAP」「TOEFL」が対象となっていて、大学入試英語提供システムに対応した種類のものを選ぶ必要があります。

③どの試験がいいの？

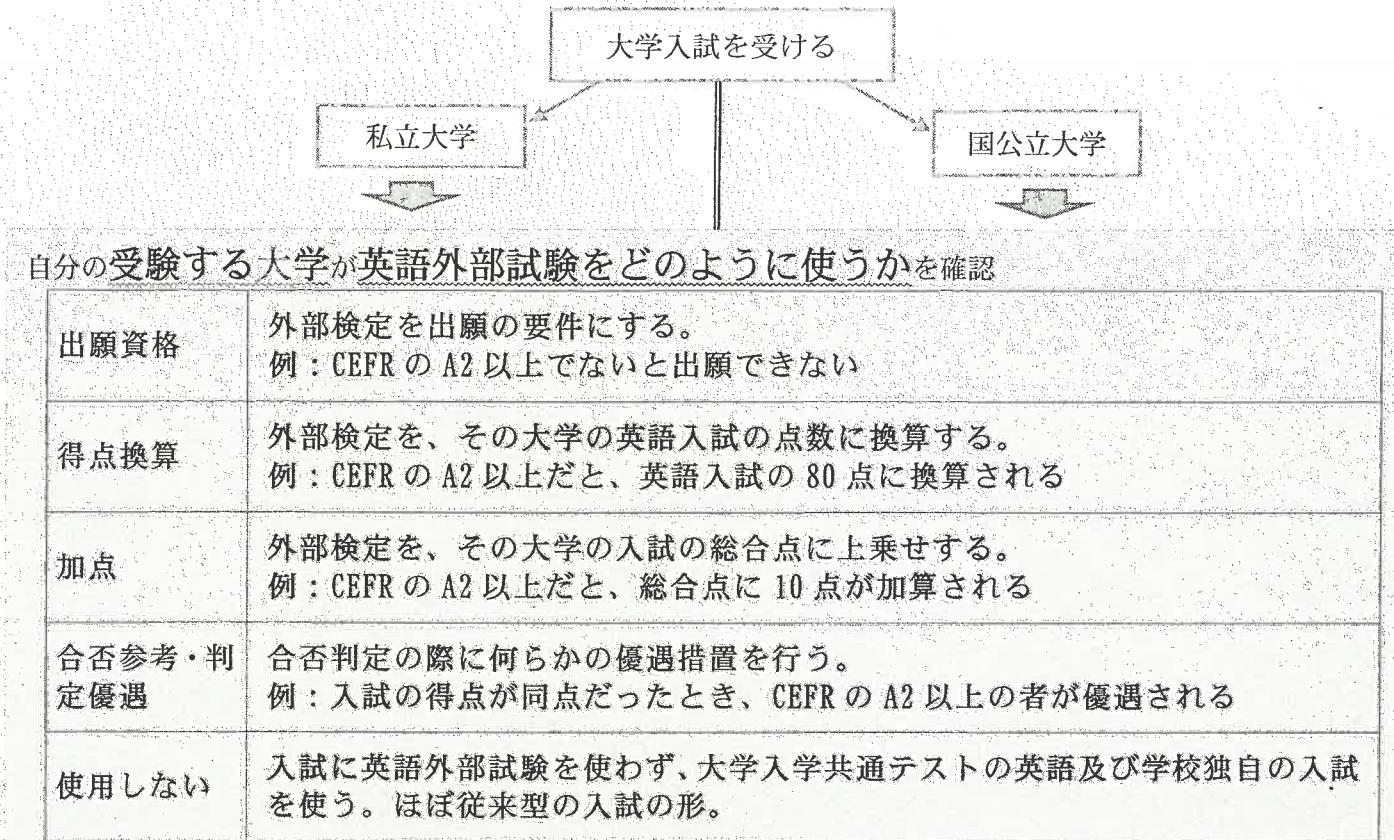
外部試験の申し込みは、共通IDを使って各個人で行います。自分に合った形の試験をそれぞれの生徒が自分で選ばなければなりません。たとえば、「TOEFL」や「IELTS」のもともとの目的は海外の大学などで学ぶ留学生の英語力測定を目的とする試験です。それぞれの試験の傾向を考えて受ける必要があります。

各資格・検定試験とCEFRとの対照表



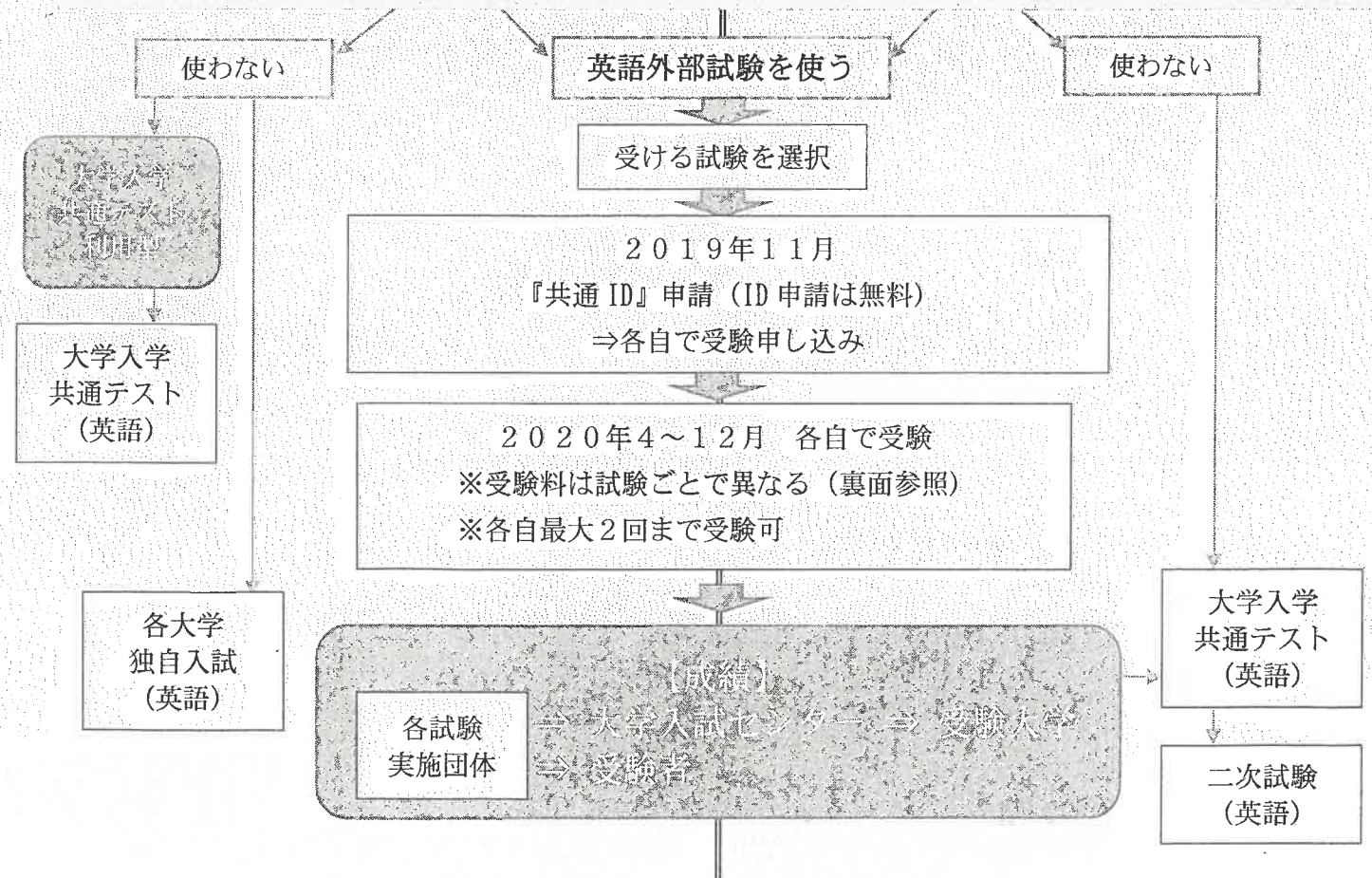
※注：TOEICは19年7月に参加を取りやめました。

3. 入試における『英語』試験のイメージ



※その他

『「大学入学共通テストの英語の得点を75%に圧縮し、残りの25%については外部試験のスコアから得点換算表に基づいて加点した結果」と「大学入学共通テストの英語の得点結果」のうち、高いほうを用いる(愛知県立大学)』、『大学が作成する二次試験の英語を廃止して外部試験の結果を使用する(首都大学東京)』など、各大学で形が異なる。

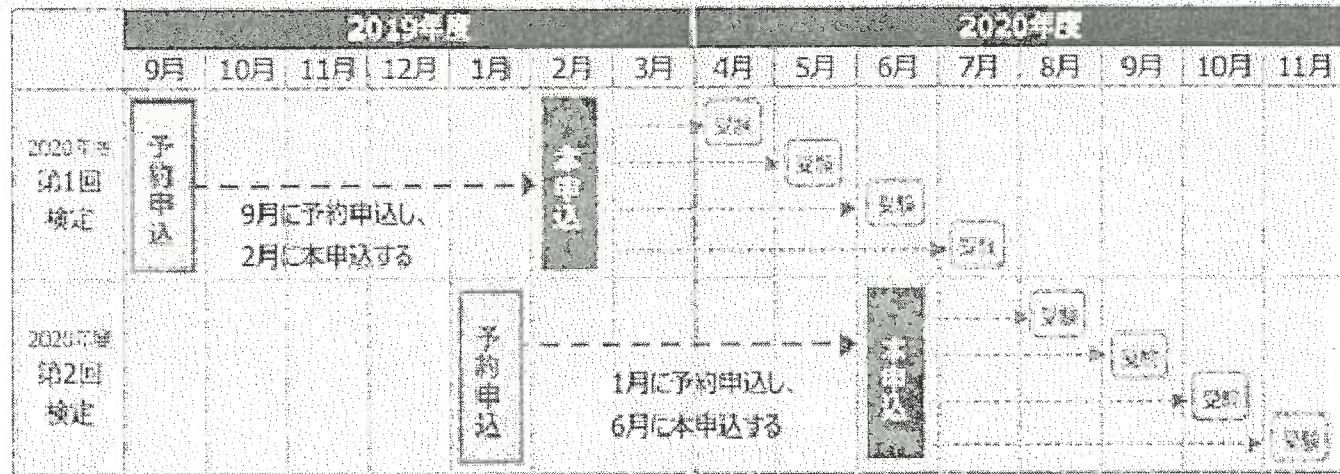


【参考資料：受験料と実施回数】(19年8月現在)

| 試験名 | 受験料 (税込) | 年間実施回数 |
|--------------------------------------|--|---------------------------------|
| 英検 CBT ※すべてコンピュータ(キーボードでタイピング)で受験 | 準1級：9,800円 2級：7,500円 準2級：6,900円 3級：5,800円 | 12回 |
| 英検 2020 1 day S-CBT ※スピーキング以外手書き | 準1級：9,800円 2級：7,500円 準2級：6,900円 3級：5,800円 | 1回目：4～7月のいずれか 2回目：8～11月のいずれか |
| TEAP | 4技能：15,000円 2技能：6,000円 | 3回 |
| TEAP CBT | 15,000円 | 3回 |
| TOEFL iBT | 235米ドル | 40～45回 |
| IELTS | 25,380円 | 最大48回 |
| GTEC | 6,700円 | 6月14日、7月19日、 10月4日、11月1日 |
| ケンブリッジ英検 | 9,720円～25,380円 | (試験センターにより異なる) |

※「英検 2020 1 day S-CBT」について

- ・「予約申込」と「本申込」をしなければならない。
- ・第1回目の試験を受ける場合、「共通 ID」を配布される前の9月に「予約申込」が必要がある(本申込は2020年2月)



https://www.eiken.or.jp/eiken/info/2019/pdf/20190702_pressrelease_2020S-CBT.pdf

- ・「予約申込」時に3,000円が必要。「本申込」時に各級の受験料から3,000円を引いた差額を支払う。ただし何らかの事情で「本申込」をしなかった場合、3,000円は返ってこない。
- ・各級で一定以上の点数をとれなかった場合、CEFRの判定が出ない場合がある。

| 英検CSEスコア | CEFR | 英検CSEスコア | CEFR | 英検CSEスコア | CEFR |
|--------------|------|--------------|------|--------------|------|
| 4000 3300 | C2 | 3299 2600 | C1 | 2599 2300 | B2 |
| 2299 1950 | B1 | 1949 1700 | A2 | 1699 1400 | A1 |
| 1399 0 | | | | | |

薄い帯：各級のCSEスコア算出範囲
濃い帯：大学入試英語成績提供システムにおける各級のCEFR算出範囲

各級のCEFR算出上限を超えるCSEスコアは、大学入試英語成績提供システム上では各級のCEFRレベル算出上限と同じ扱い・表記となります

例1：「大学入試英語成績提供システム」で【CEFR】A2を出願基準とする大学を志望する場合

- ・上図で【CEFR】A2相当の「英検CSEスコア」は1,700～1,949点の範囲です。
- ・したがって、受験すべき英検級は準2級、または2級となります。
- ・準2級を受験すると必要なスコアは1,700点以上、2級は1,728点以上となります。
- ※ なお3級では【CEFR】A2の取得はできません。

例2：「大学入試英語成績提供システム」で【CEFR】B1を加点対象とする大学を志望する場合

- ・上図で【CEFR】B1相当の「英検CSEスコア」は1,950～2,299点の範囲です。
- ・したがって受験すべき英検級は2級、もしくは準1級です。
- ・2級を受験すると必要なスコアは1,950点以上、準1級ですと1,980点以上となります。
- ※ なお準2級、3級では【CEFR】B1の取得はできません。

例3：「大学入試英語成績提供システム」で【CEFR】B2をみなし満点とする大学を志望する場合

- ・上図で【CEFR】B2相当の「英検CSEスコア」は2,300～2,599点の範囲です。
- ・したがって受験すべき英検級は準1級、もしくは1級です。
- ・準1級を受験すると必要なスコアは2,300点以上、1級ですと2,304点以上となります。
- ※ なお2級、準2級、3級では【CEFR】B2の取得はできません。